普 及 項 目	養殖
漁業種類等	養殖業
対 象 魚 類	カキ
対 象 海 域	熊本有明海

荒尾漁協におけるカキ養殖生産指導

県北広域本部水産課・直江　瑠美

【背景・目的・目標（指標）】

荒尾干潟は、単一の干潟としては国内有数の広さを誇り、古くからノリ養殖やアサリ採貝が行われてきた。

そのような中、荒尾漁協では、令和３年度（2021 年度）から新たな取組みとして干潟域でバスケットを活用したシングルシード方式のマガキ及びクマモト・オイスター（以下「クマモト」という。）の試験養殖を開始した。令和５年度（2023 年度）には、区画漁業権を取得し、本格的にマガキの養殖と販売を開始したが、管理不足や多大な生産・販売コスト等の課題があることがわかった。そこで、荒尾漁協のカキ養殖の課題を解決し、新たな地元の稼げる産業として定着することを目的に、生産から出荷まで一連の技術指導を行った。

【普及の内容・特徴】

１　荒尾漁協におけるカキ養殖事業反省会及び定期連絡会議の開催

令和５年度（2023 年度）の養殖及び試験販売の反省会を令和６年（2024 年）５月 10 日に実施した。反省会では、夏期の管理不足によるフジツボやカキ同士の付着により、試験販売におけるカキ殻磨き作業に多大な人件費がかかり、カキの成長が悪かったため、想定より販売量が減少したことを確認した。そこで、細やかな管理を徹底すること、軽作業化、作業効率化のために機械化できる作業は機械化すること等、改善策を議論し、作業状況の共有のため、月に１回の頻度で定期連絡会議を開催することとした。

なお、定期連絡会議を開催することで、関係者間で作業の進捗状況の共有が可能となり、毎月計画的に管理を行うことで、養殖管理や販売準備にかかる人件費を大幅に削減することができた。

２　販売に向けた漁協及び生産者への取り組み支援

令和７年（2025 年）１月９日の定期連絡会議にて、マガキ販売に係る打合せを実施した。令和６年（2024 年）８月 21 日に生食用カキの出荷に必要な海域指定は取得できたものの、浄化設備が未整備であったことから、販売は前年度と同様に加熱用のみとし、単価は１kg入り袋 1,600 円で販売した。また、販売は、直売所と地元量販店のイベントで令和７年（2025 年）２月６日から２月 28 日の期間中の 11 日間行い、合計 754 kg（前年度比 1.04 倍）を販売した。

また、クマモトの販売に向けて、浄化及び販売を委託するための商談を目的として、令和７年（2025 年）１月 15 日に福岡県のカキ養殖販売事業者の視察を行った。販売に対して前向きに商談が進んだものの、販売価格の決定までは至らず、浄化及び販売の委託は実施されなかった。そのため、荒尾漁協が養殖していたクマモト（未浄化）は、生産者の協議会へ約 4,000 個、県内の１個人養殖業者へ約 1,000 個を販売した。

【成果・活用】

令和５年度（2023 年度）の養殖及び販売の反省点を踏まえ、販売に向けて管理を改善することで、人件費の大幅な削減ができ、今年度はカキ養殖事業で利益を出すことができた。準備したマガキは完売し、今年度の販売を楽しみにしていたという

声も聞かれ、直売所でのカキ販売の期待も高いことから、当課では安定生産やカキ販売で十分な利益を確保できるよう引き続き指導・助言を行うこととしている。

【達成度自己評価】

４　目標（指標）はほぼ達成できた（76～100％）

図１　荒尾漁協の位置図

図２　販売チラシ

図３　荒尾漁協直売所の様子

図４　商談の様子